

親子金融リテラシー調査

アセットマネジメントOne

未来をはぐくむ研究所

調査概要

(1)調査名:親子金融リテラシー調査

(2)調査対象:小学1年生～大学生の子どもがいる全国の20歳以上男女

※関連業種(金融、調査、マスコミ、広告)従事者を除く

(3)調査方法:WEBアンケート調査

(4)調査時期:2024年3月

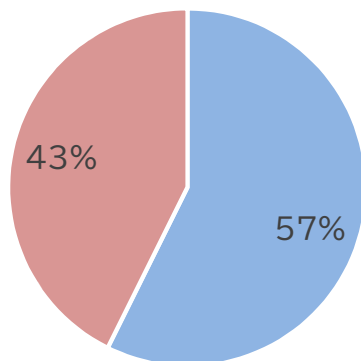
(5)サンプルサイズ:2,000

(6)サンプルの属性

同居している子どものうち、一番年齢の高い子どもが小学1～3年生	200
同居している子どものうち、一番年齢の高い子どもが小学4～6年生	200
同居している子どものうち、一番年齢の高い子どもが中学生	500
同居している子どものうち、一番年齢の高い子どもが高校生	600
同居している子どものうち、一番年齢の高い子どもが専門学校生・短大生・大学生	500

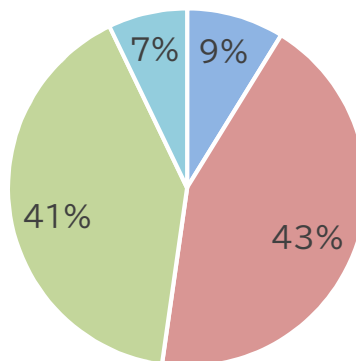
※資料上の注意:結果数値(%)は四捨五入の関係で、内訳の合計が100%とならない場合がある

性別



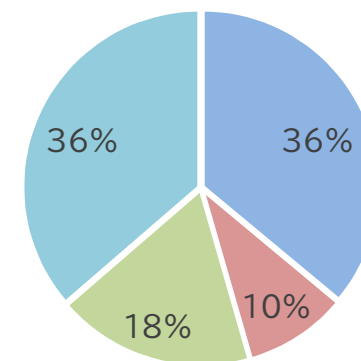
■ 男性 ■ 女性

年代



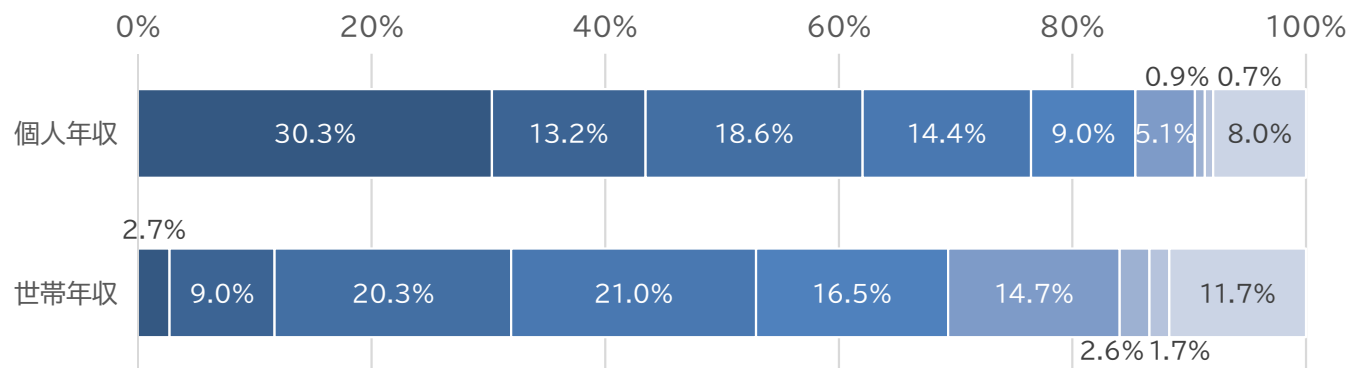
■ 30代以下 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代以上

住まいの地域



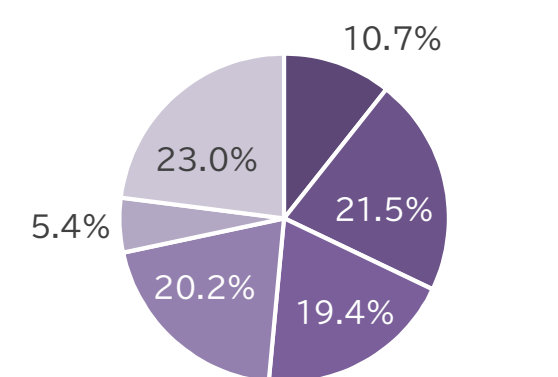
■ 首都圏 ■ 名古屋圏 ■ 阪神圏 ■ その他地域

個人年収と世帯年収の分布



■ 200万円未満 ■ 200万円～400万円未満 ■ 400万円～600万円未満
 ■ 600万円～800万円未満 ■ 800万円～1,000万円未満 ■ 1,000万円～1,500万円未満
 ■ 1,500万円～2,000万円未満 ■ 2,000万円以上 ■ わからない

金融資産の保有額



■ 貯蓄なし ■ 300万円未満 ■ 1000万円未満
 ■ 5000万円未満 ■ 5000万円以上 ■ わからない

調査結果の概要と示唆

I

親自身の 「金融リテラシー」

- 自身の金融リテラシーは「あると思わない」と感じている親が多い
（「強くあると思う」「あると思う」＜「あまりあると思わない」「全くあると思わない」）
- 身につけているのは「お金の賢い使い方・節約(35.6%)」、「お金の貯め方(33.6%)」、「家計の管理(30.2%)」。高めたいのは「お金の増やし方(41.0%)」
- 74.2%の親が子どもに金融リテラシーを身につけてほしいと思っている
- 子どもに身につけてほしいのは「お金の賢い使い方・節約(51.6%)」、「お金の貯め方(48.5%)」、「お金のトラブル回避(46.3%)」、「お金の稼ぎ方(43.0%)」

親は子どもの金融リテラシー向上を期待しており、そのための金融経済教育の重要性が広く認識されていると考えられる

III

子どもの 「お金に関する学び」

- 60.5%の親が現在小・中・高校でお金の授業が行われていることを「知らない」
- 55.8%の親がお金の授業は重要であり、学校でしっかり行ってほしいと思う
- 55.1%の親が子どもに投資について勉強してほしいと思う

親は学校での金融経済教育を期待しているが、学校では時間の制限や、実践的な学びを提供することが難しいため、家庭で環境を整えることが重要

IV

親の 「資産形成」

- 63.5%の親は将来を見据えた生活設計、マネープランが「できていない」「なくてもよい」「考えたことがない」
- 31.3%の親は「資産形成を行っていない」
- 節税メリットを考慮した投資や貯蓄があることを「知っている」:45.0%、「利用している」:28.5%

子どもへ実践的な金融経済教育を行うという点で、まず親自身が生活設計、マネープラン、資産形成などに対して、一歩踏み出して行動に移してることが重要

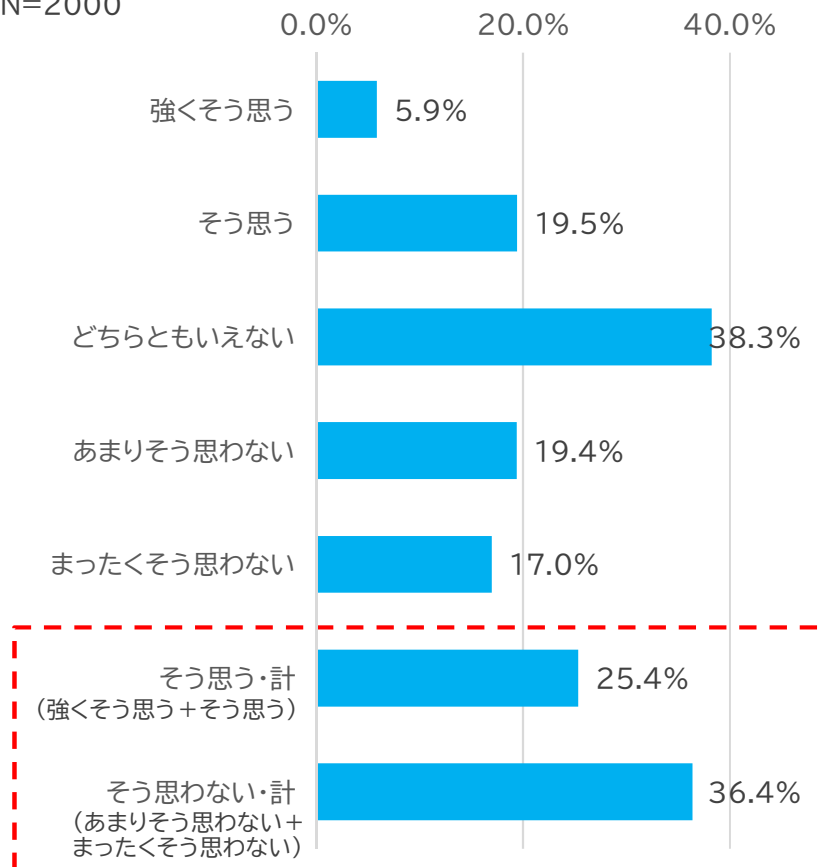
I. 子どもを持つ親自身の「金融リテラシー」

子どもを持つ親自身の「金融リテラシー」①

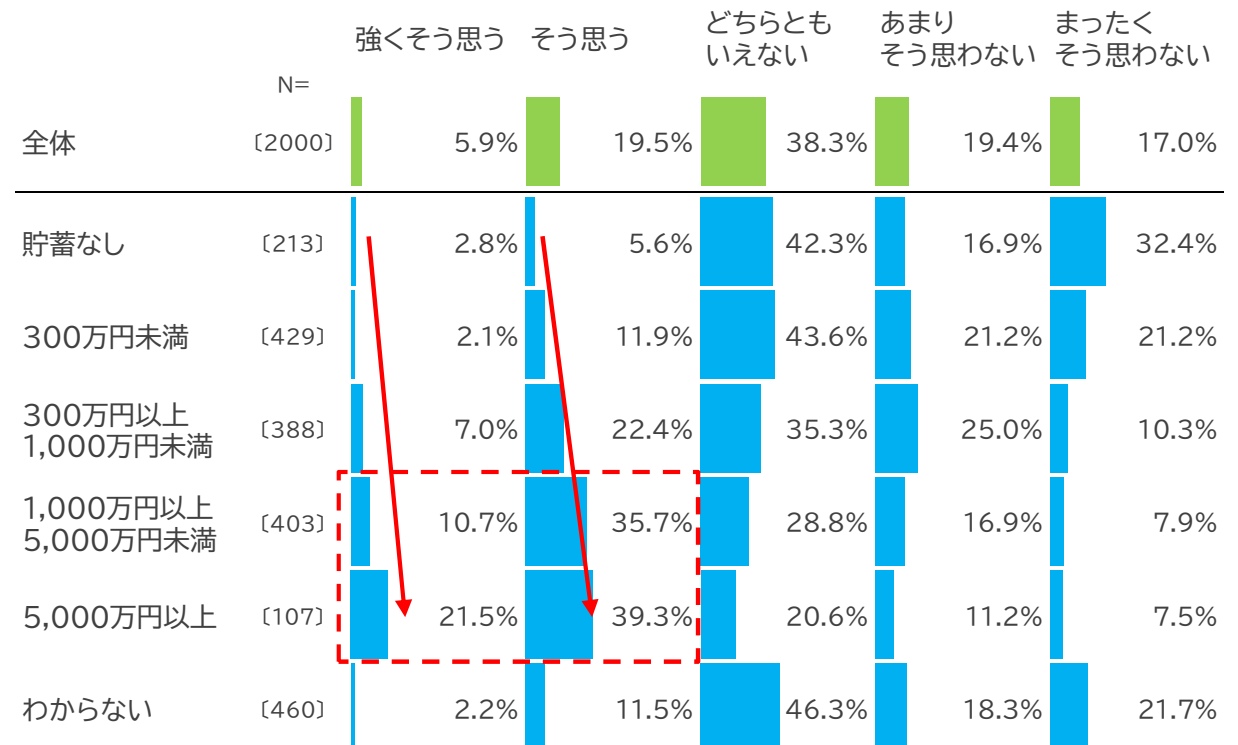
- 子どもを持つ親自身の金融リテラシーは「そう思わない・計(あまりそう思わない+全くそう思わない)」が36.4%と「そう思う・計(強くそう思う+そう思う)」の25.4%を上回る
- 金融資産の保有額が増えるほど「そう思う・計(強くそう思う+そう思う)」割合が上昇し、5,000万円以上では6割以上

ご自身に「金融リテラシー」はあるほうだと思いますか

N=2000



【保有金融資産別】「金融リテラシー」はあるほうだと思いますか

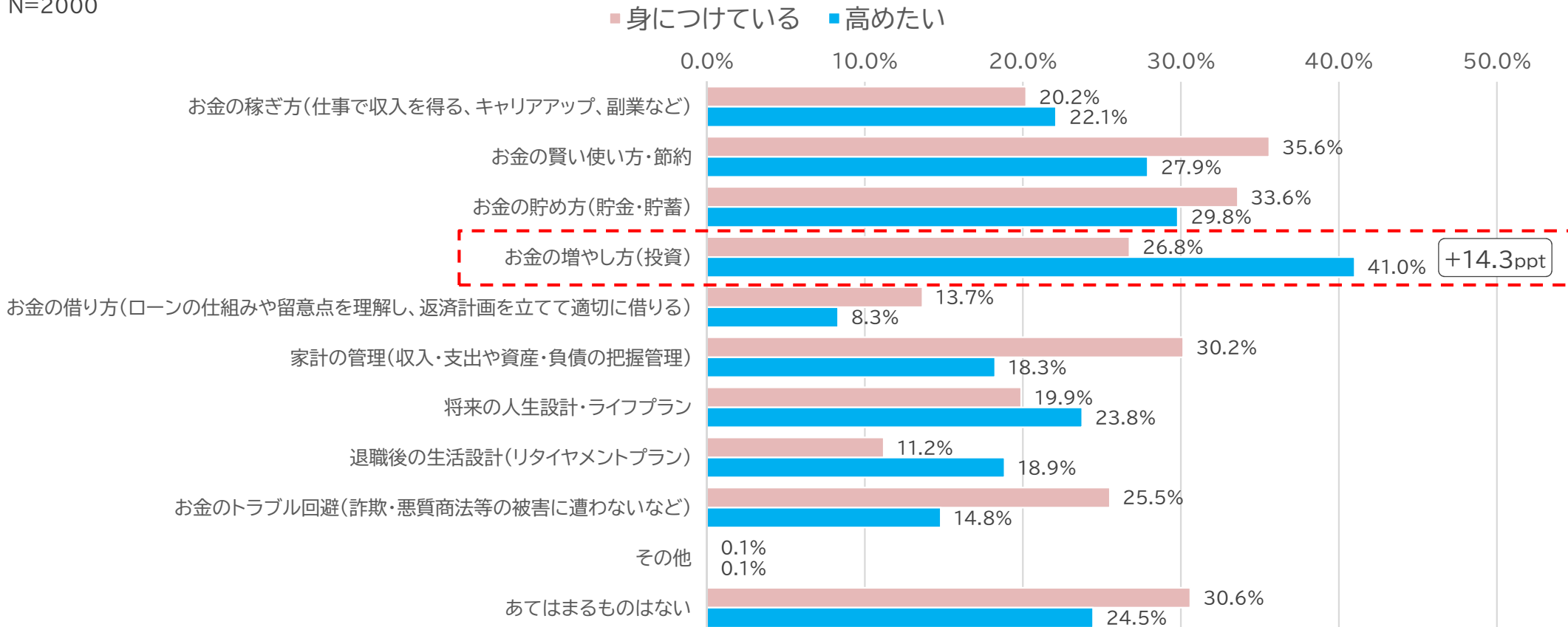


子どもを持つ親自身の「金融リテラシー」②

- 子どもを持つ親自身が身につけていると考える金融リテラシーは「お金の賢い使い方・節約」が35.6%、「お金の貯め方」が33.6%、「家計の管理」が30.2%
- 一方、高めたい金融リテラシーは「お金の増やし方」が41.0%と突出。実際に身につけていると考える割合と大きな差があり、投資に関する知識・判断力に課題が見られる

自身が「身につけていると考える金融リテラシー」と「高めたい金融リテラシー」

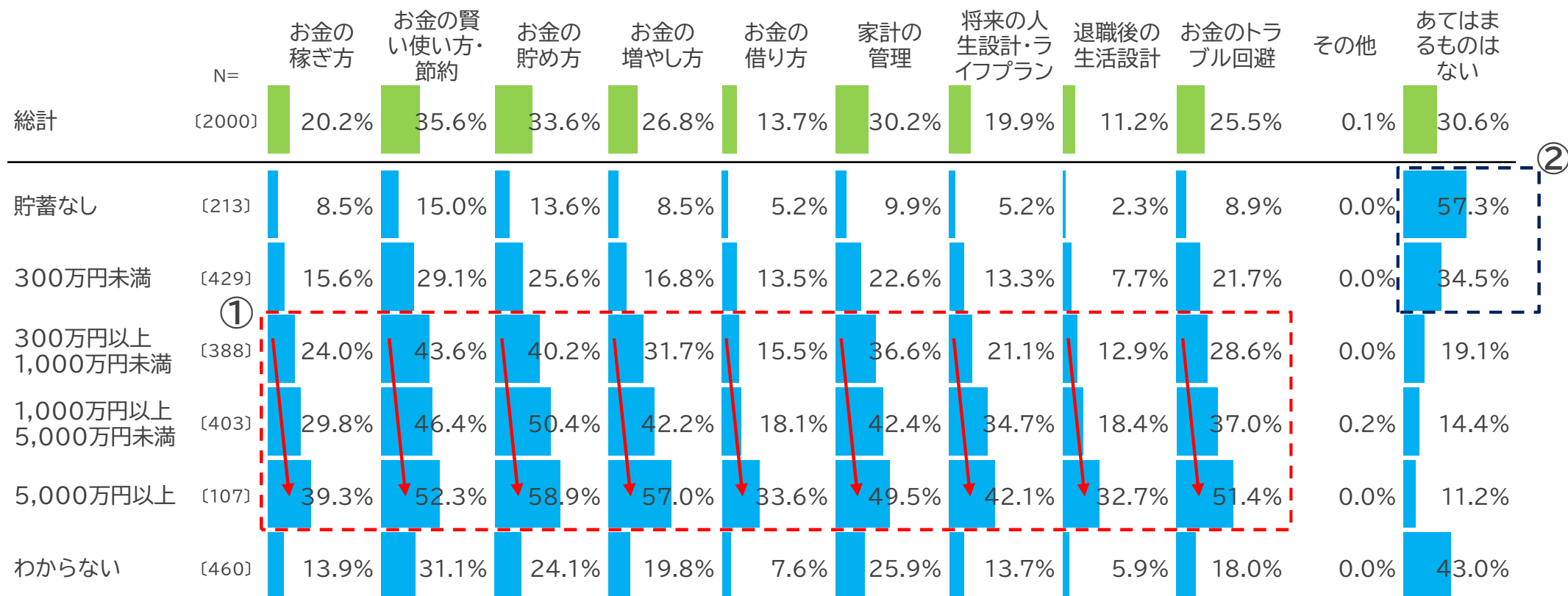
N=2000



子どもを持つ親自身の「金融リテラシー」③

- 金融資産の保有額が増えるほど、各金融リテラシーを身につけている割合が上昇(①)。退職後の生活設計については、その中でもやや関心が低い
- 300万円未満では「あてはまるものはない」の割合が最も大きく、貯蓄なしでは過半数を占める(②)

【保有金融資産別】自身が「身につけていると考える金融リテラシー」



子どもを持つ親自身の「金融リテラシー」④

- 親自身が高めたい金融リテラシーは、貯蓄なし・わからない以外では「お金の増やし方」の割合が最も大きい
- 金融資産の保有額が大きいほど、金融リテラシー向上に対する意欲が高く、保有額が小さいほど意欲が低い

【保有金融資産別】自身が「高めたい金融リテラシー」

	N=	お金の稼ぎ方	お金の賢い使い方・節約	お金の貯め方	お金の増やし方	お金の借り方	家計の管理	将来の人生設計・ライフプラン	退職後の生活設計	お金のトラブル回避	その他	あてはまるものはない
総計	[2000]	22.1%	27.9%	29.8%	41.0%	8.3%	18.3%	23.8%	18.9%	14.8%	0.1%	24.5%
貯蓄なし	[213]	14.1%	22.5%	20.2%	18.8%	5.6%	11.3%	10.8%	9.4%	5.2%	0.0%	44.6%
300万円未満	[429]	25.9%	28.7%	35.2%	37.3%	7.2%	17.0%	21.9%	15.9%	12.6%	0.0%	22.8%
300万円以上 1,000万円未満	[388]	26.5%	31.7%	35.3%	48.7%	11.3%	22.4%	29.6%	22.2%	20.1%	0.3%	12.4%
1,000万円以上 5,000万円未満	[403]	21.3%	30.3%	30.8%	52.6%	8.2%	21.3%	29.3%	24.3%	17.4%	0.0%	14.6%
5,000万円以上	[107]	33.6%	29.0%	29.9%	57.9%	22.4%	23.4%	33.6%	32.7%	26.2%	0.0%	17.8%
わからない	[460]	16.5%	24.1%	23.7%	34.1%	4.8%	15.2%	19.3%	15.2%	12.0%	0.0%	37.0%

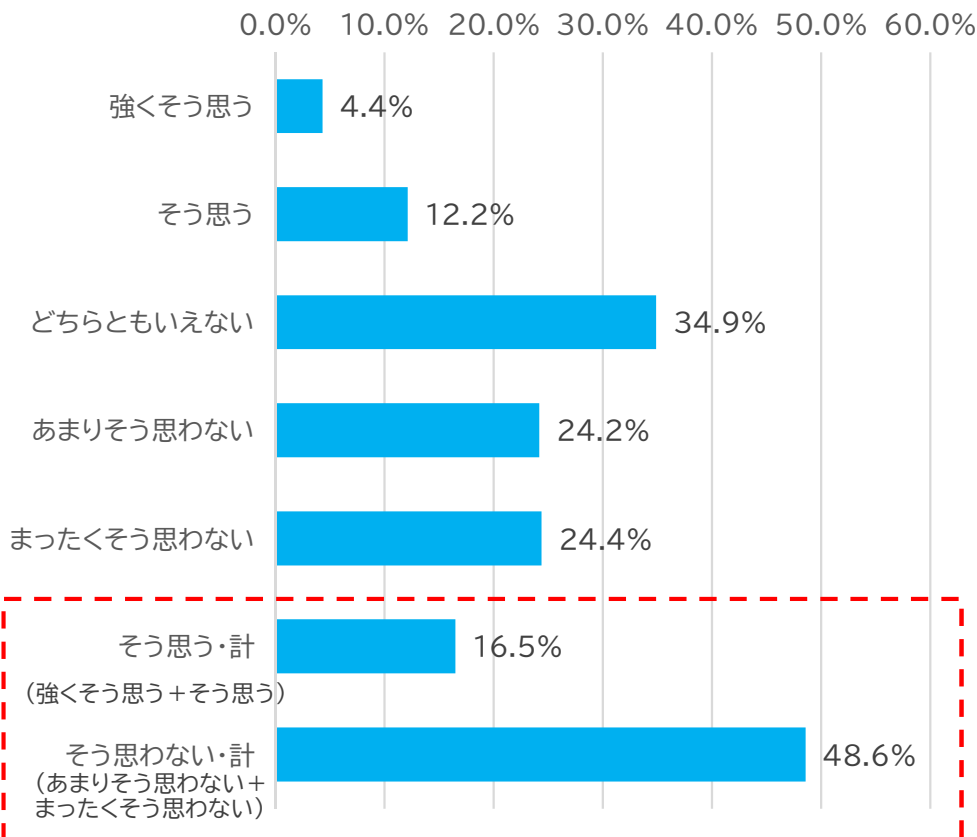
Ⅱ. 子どもの「金融リテラシー」

子どもの「金融リテラシー」①

- 親が思う子どもの金融リテラシーは、「そう思わない・計(あまりそう思わない+全くそう思わない)」が48.6%と「そう思う・計(強くそう思う+そう思う)」の16.5%を大きく上回る
- 子どもに金融リテラシーを身につけてほしいかという質問に対しては、「そう思う・計(強くそう思う+そう思う)」が74.2%と多くの親が身につけてほしいと回答

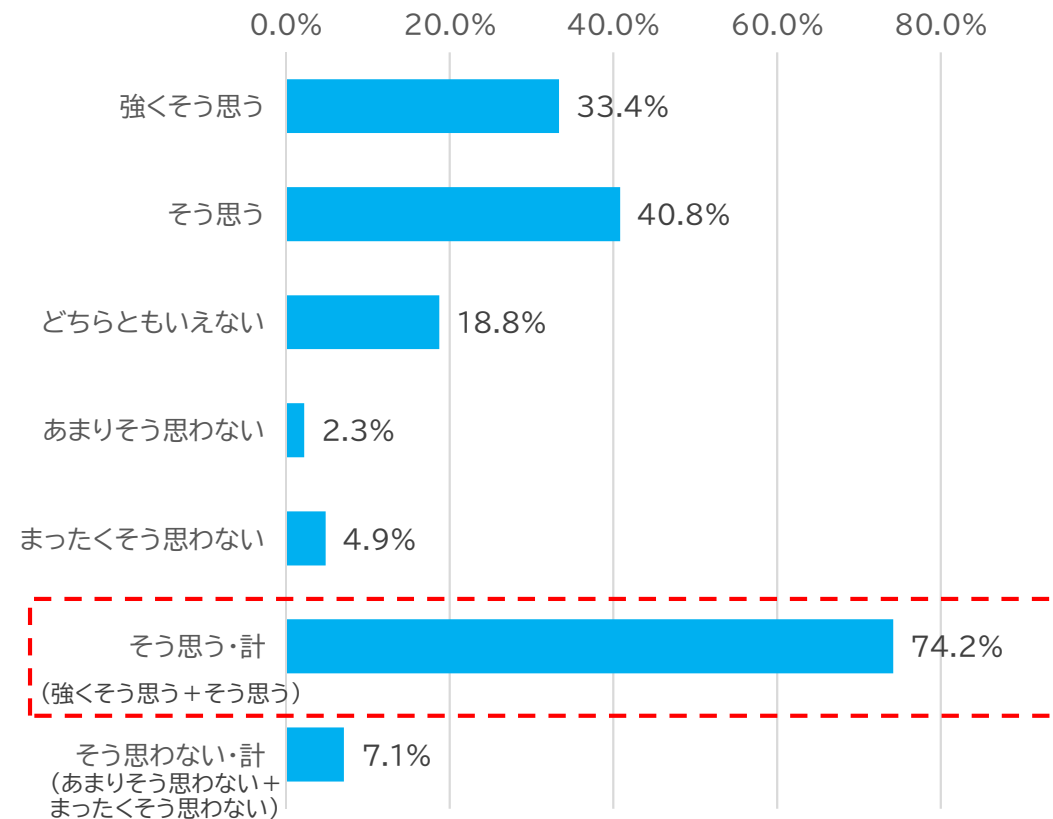
お子さまは「金融リテラシー」はあるほうだと思いますか

N=2000



お子さまに「金融リテラシー」を身につけてほしいと思いますか

N=2000



※複数の子どもがいる場合は最も年齢の高い子どもについて

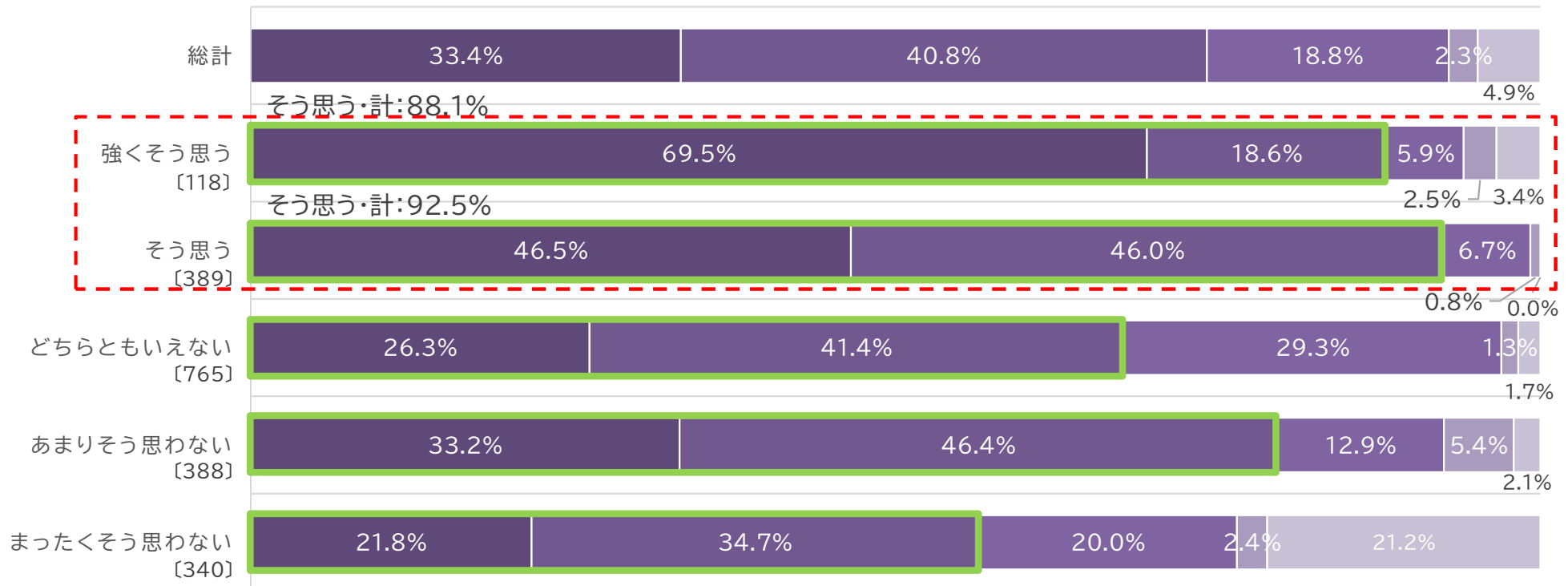
子どもの「金融リテラシー」②

- 親の金融リテラシー水準に関わらず、多くの親は子どもに金融リテラシーを身につけてほしいと回答
- 特に親自身が「強くそう思う」「そう思う」では、子どもに対して「そう思う・計(強くそう思う＋そう思う)」が9割程度

【親の「金融リテラシー」水準別】 お子さまに「金融リテラシー」を身につけてほしいか？

N=2000

■ 強くそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない



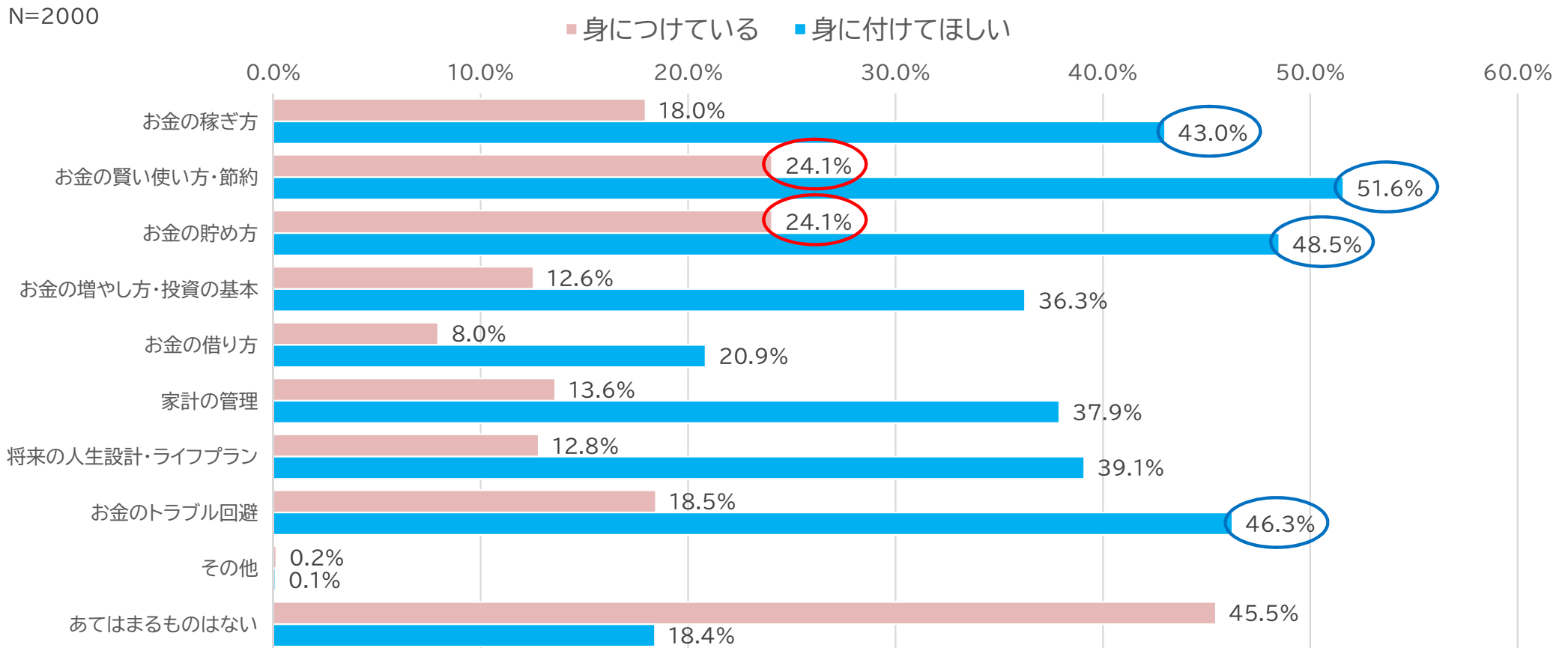
※複数の子どもがいる場合は最も年齢の高い子どもについて

巻末の注意事項を必ずお読みください。

子どもの「金融リテラシー」③

- 子どもが身につけている金融リテラシーは、割合が大きいものでも「お金の賢い使い方・節約」と「お金の貯め方」の24.1%
- 身につけてほしい金融リテラシーでは「賢い使い方・節約」「貯め方」「トラブル回避」「稼ぎ方」が4割を超えており、幅広い金融リテラシーの会得を希望(先ずはお金を守るを優先)

お子さまが「身につけている金融リテラシー」と「身につけてほしい金融リテラシー」



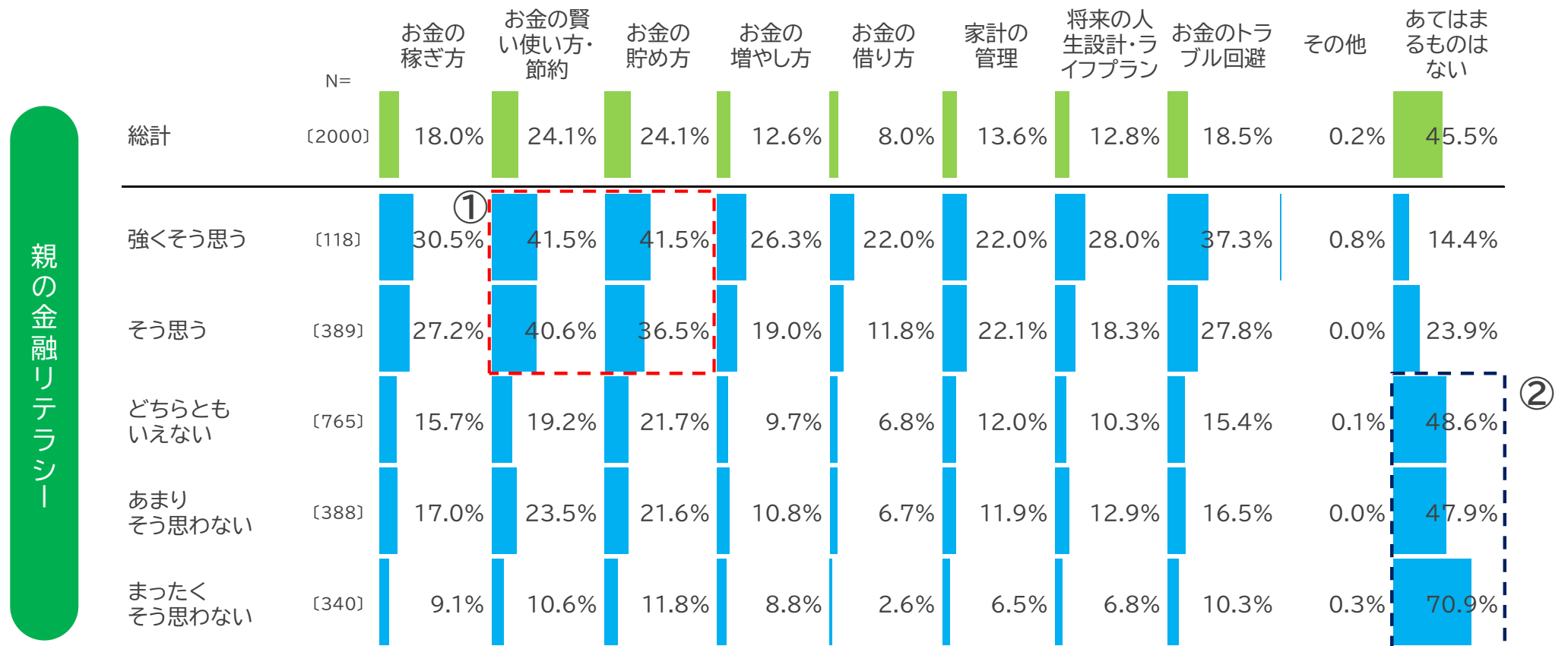
※複数の子どもがいる場合は最も年齢の高い子どもについて

巻末の注意事項を必ずお読みください。

子どもの「金融リテラシー」④

- 親の金融リテラシーが高いほど、子どもが身につけている割合が高い。特に、「お金の賢い使い方・節約」「お金の貯め方」が高い(①)
- 親が金融リテラシーに自信がないほど、子どもが身につけている金融リテラシーに「あてはまるものはない」と回答している傾向(②)

【親の「金融リテラシー」水準別】 お子さまが「身につけている金融リテラシー」



親の金融リテラシー

②

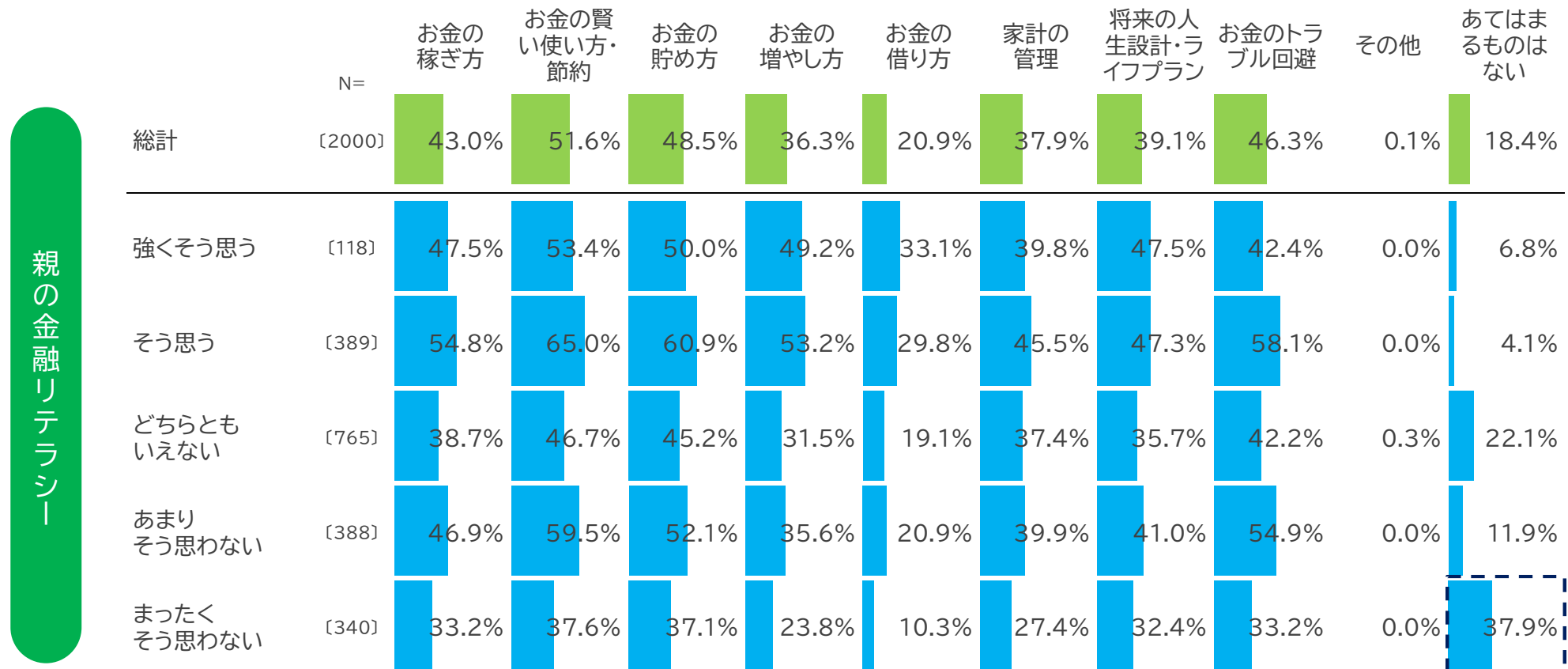
※複数の子どもがいる場合は最も年齢の高い子どもについて

巻末の注意事項を必ずお読みください。

子どもの「金融リテラシー」⑤

- 自身に金融リテラシーがあるとまったく思わない(「まったくそう思わない」)親は、子どもに身につけてほしい金融リテラシーも「あてはまるものはない」と回答している傾向
- 上記以外の層では、子どもに対して幅広く金融リテラシーを身につけてほしいと考えている傾向

【親の「金融リテラシー」水準別】 お子さまに身につけてほしい「金融リテラシー」

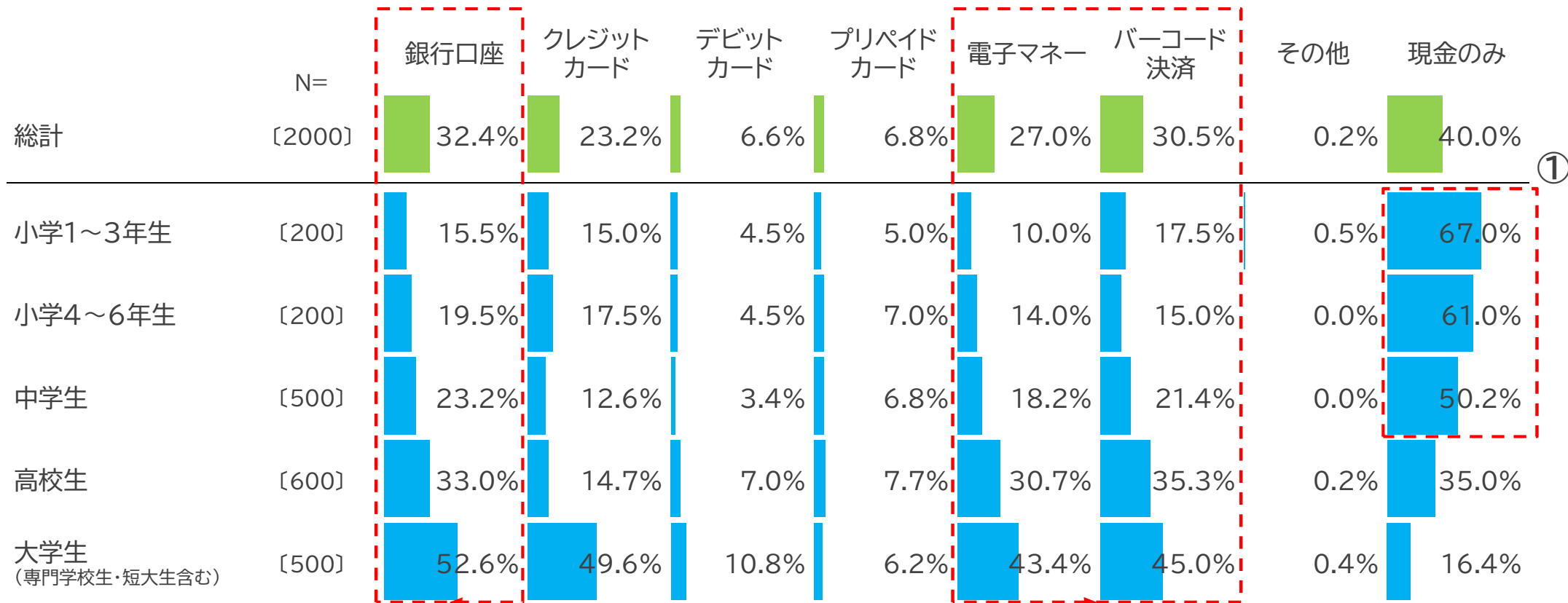


※複数の子どもがいる場合は最も年齢の高い子どもについて

子どもの「金融リテラシー」⑥

- 中学生以下では特定の金融サービスを使っていない(「現金のみ」)が半数以上(①)
- 「電子マネー」および「バーコード決済」の使用割合が、子どもの年齢層を問わず、主要な金融サービスである「銀行口座」と大きな差がなく、キャッシュレス化の進展が伺える

【子どもが通う教育機関別】 お子さまが使っている金融サービスを教えてください



①

②

※複数の子どもがいる場合は最も年齢の高い子どもについて

巻末の注意事項を必ずお読みください。

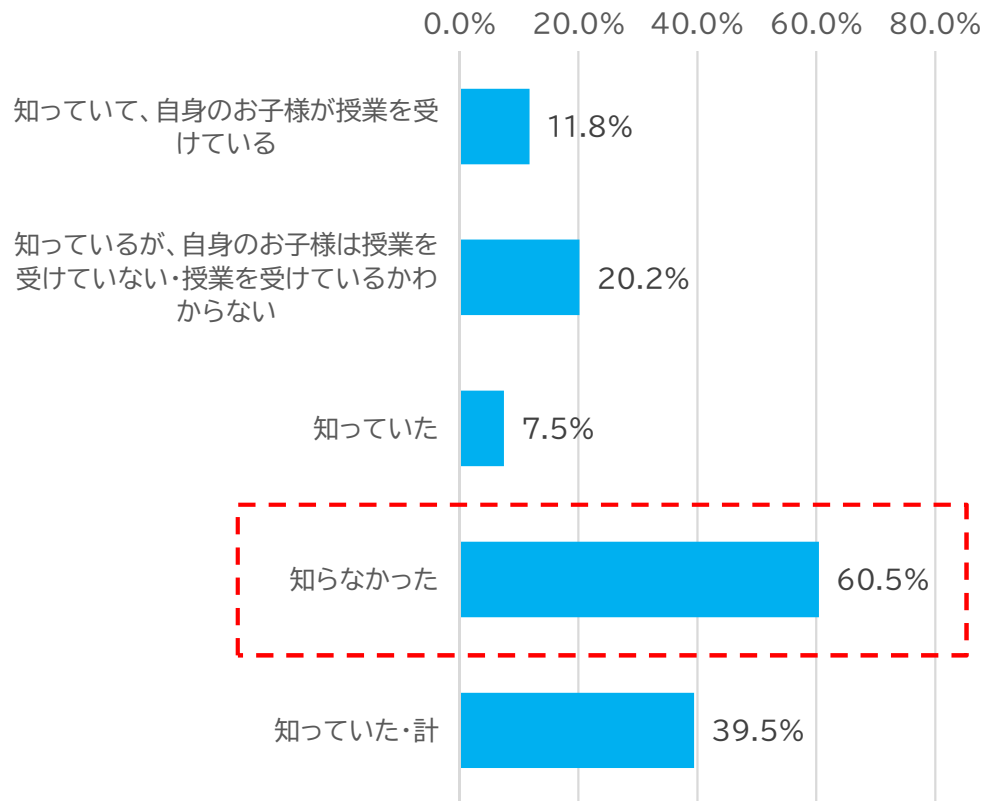
Ⅲ. 子どもの「お金に関する学び」

子どもの「お金に関する学び」①

- 現在小・中・高校でお金についての授業が行われていることを「知らなかった」と回答する親は60.5%と大半が認知していない
- 一方、お金についての授業が行われることについては肯定的であり、「重要であり、しっかり行ってほしい」が55.8%（「ある程度行ってほしい」と合わせると80%）

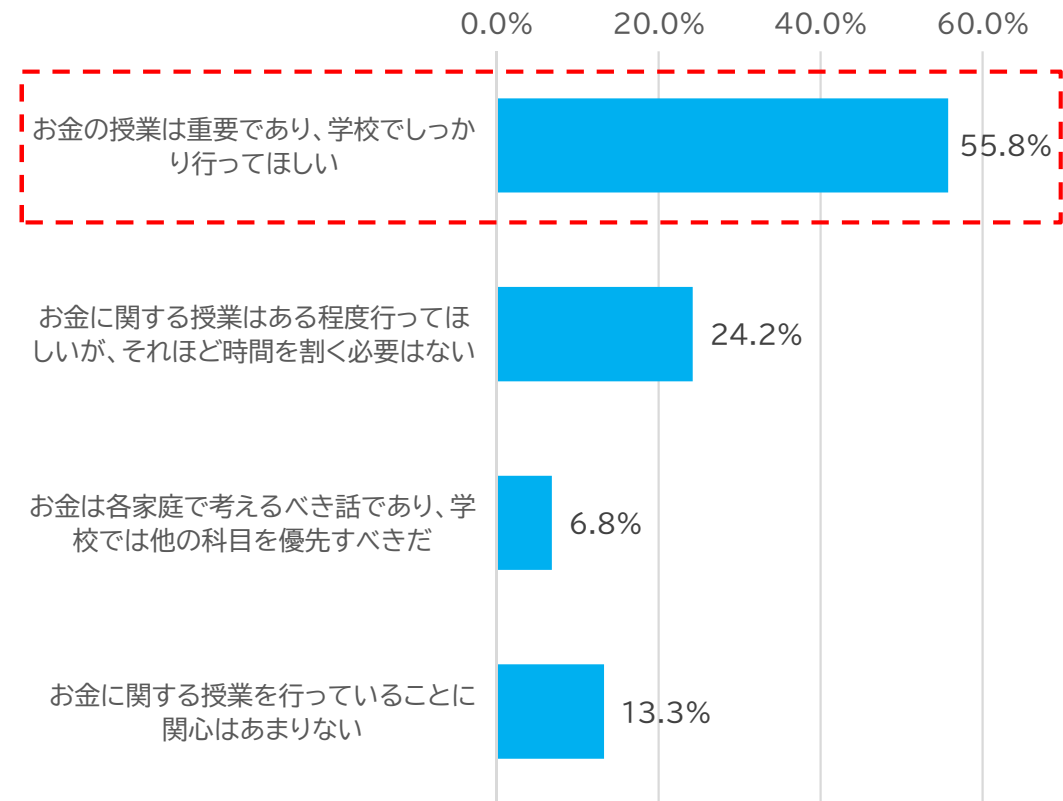
お金についての授業が行われていますが、知っていましたか

N=2000



お金についての授業が行われていることについて、どうお考えですか

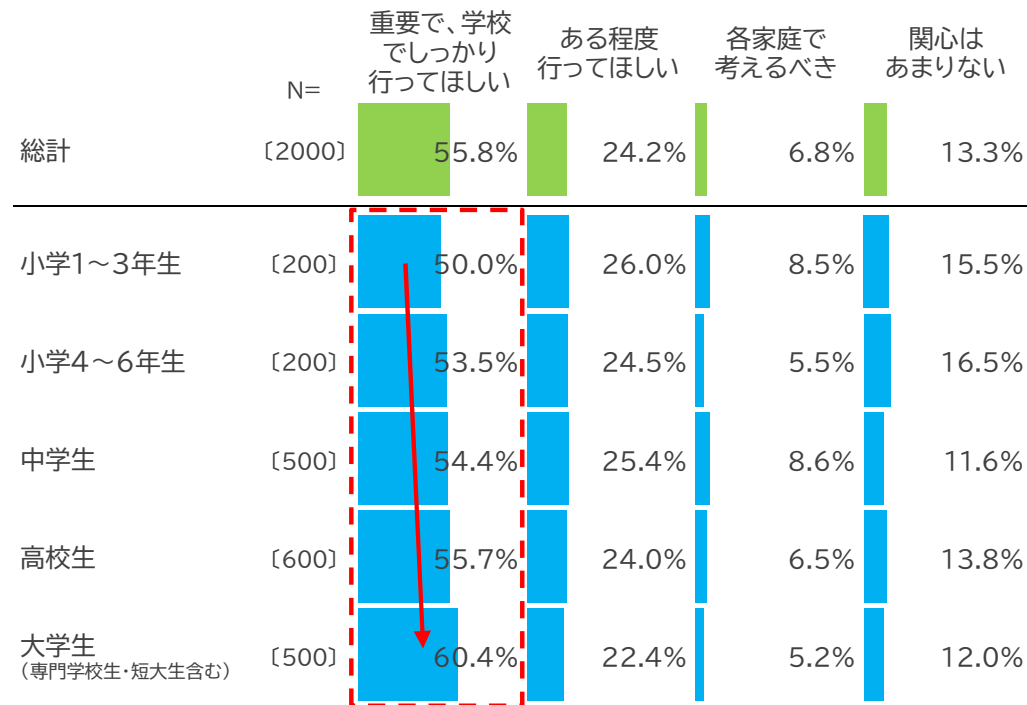
N=2000



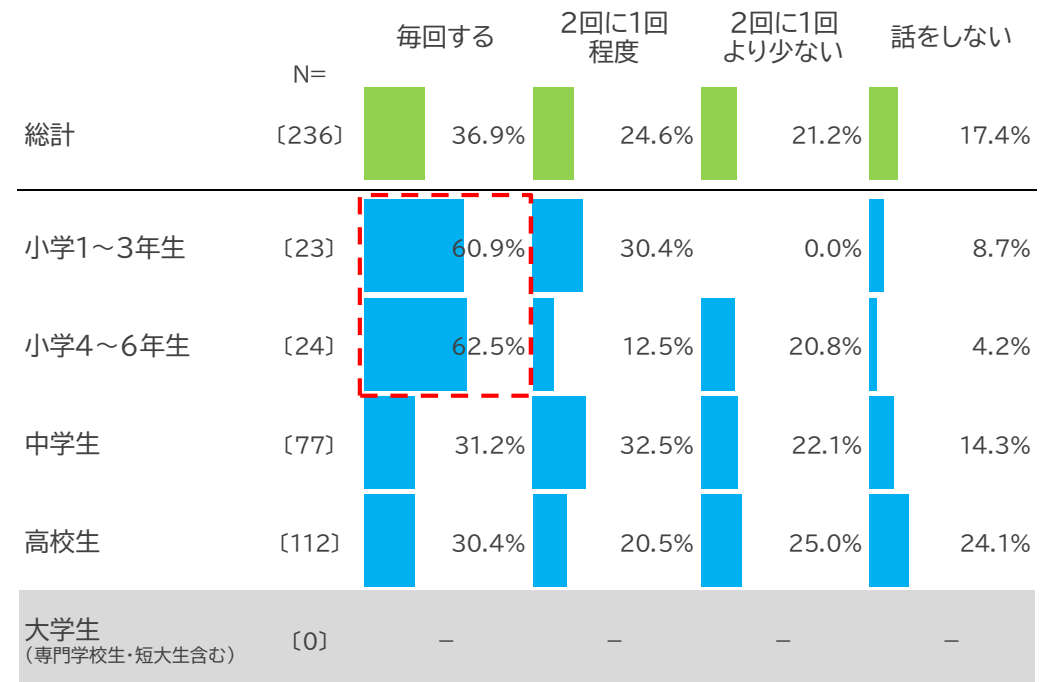
子どもの「お金に関する学び」②

- 子どもの年齢層(子供が通う教育機関)に関わらず、お金の授業は重要と考えられており、子どもの年齢が進むにつれその割合は上昇
- 子どもがお金の授業を受けていることを認識している親は、子どもが授業を受けた時に家庭内でお金の話を行う傾向(子供が小学生の親は「毎回する」が60%以上)

【子どもが通う教育機関別】
お金の授業が行われていることについて、どのようにお考えですか



【子どもが授業を受けていることを知っている親】
お金の授業を受けたときに家庭内でお子さまとお金の話をしますか



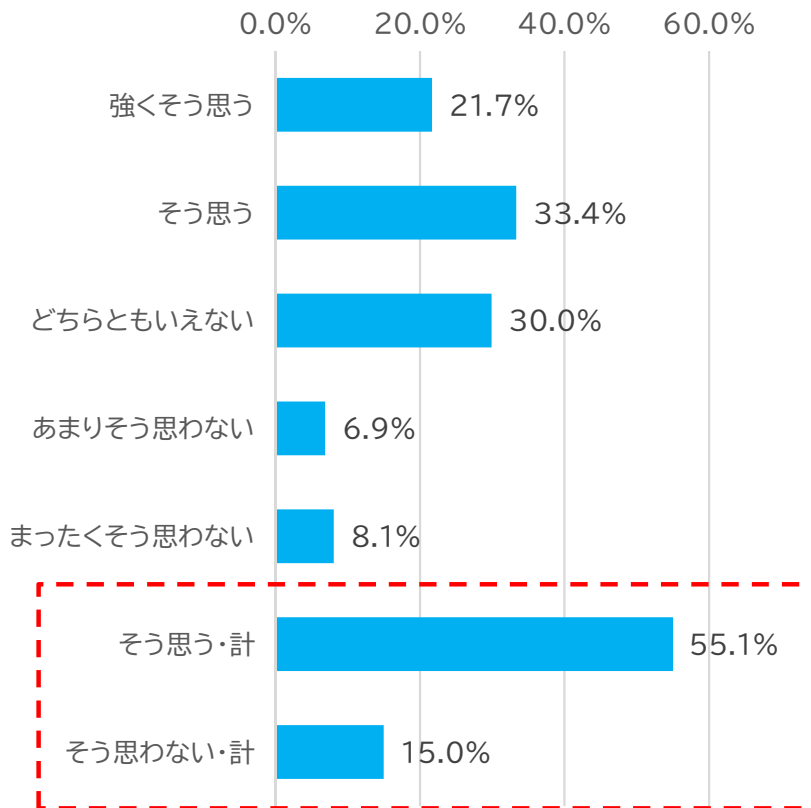
※複数の子どもがいる場合は最も年齢の高い子どもについて

子どもの「お金に関する学び」③

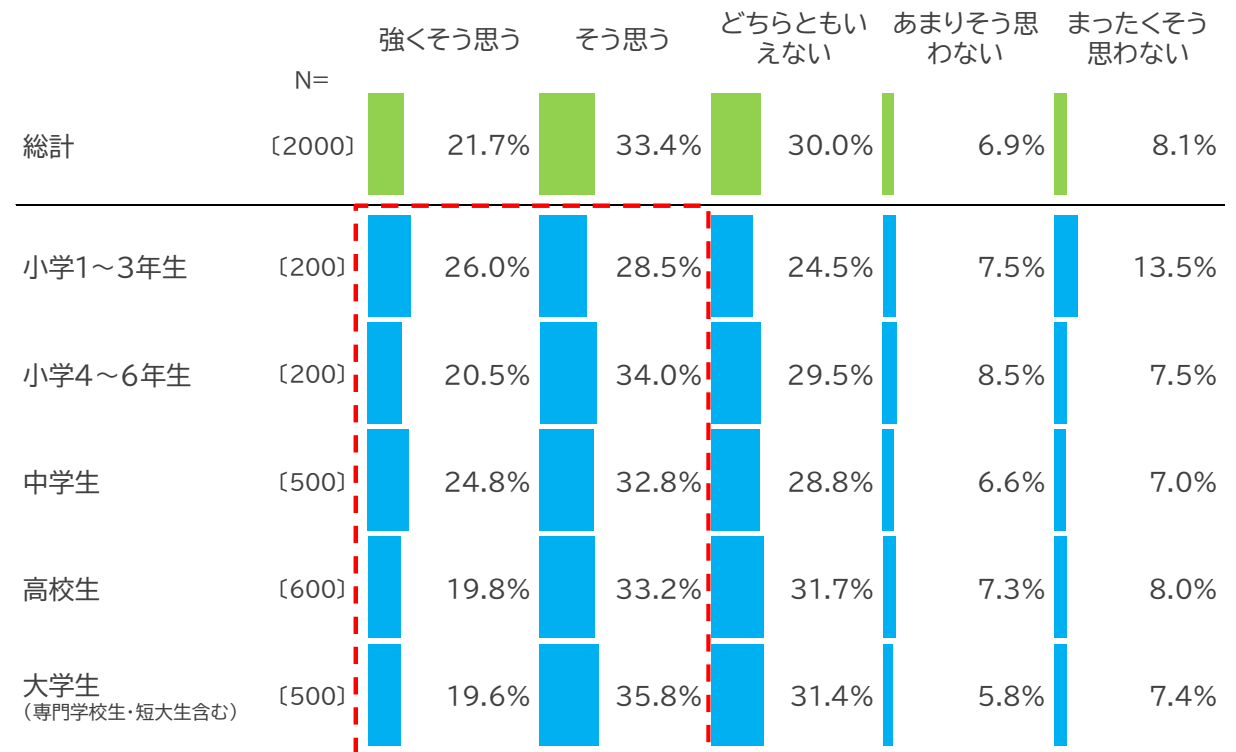
- 子どもに投資を勉強してほしいと思っている親は55.1%（「そう思う・計」と「そう思わない・計」の15.0%を大きく上回る
- 子どもの年齢層（子供が通う教育機関）に関わらず、子どもに投資の勉強をしてほしいと思っている

お子さまに投資について勉強して欲しいと思いますか

N=2000



【子どもが通う教育機関別】 お子さまに投資について勉強して欲しいと思いますか



※複数の子どもがいる場合は最も年齢の高い子どもについて

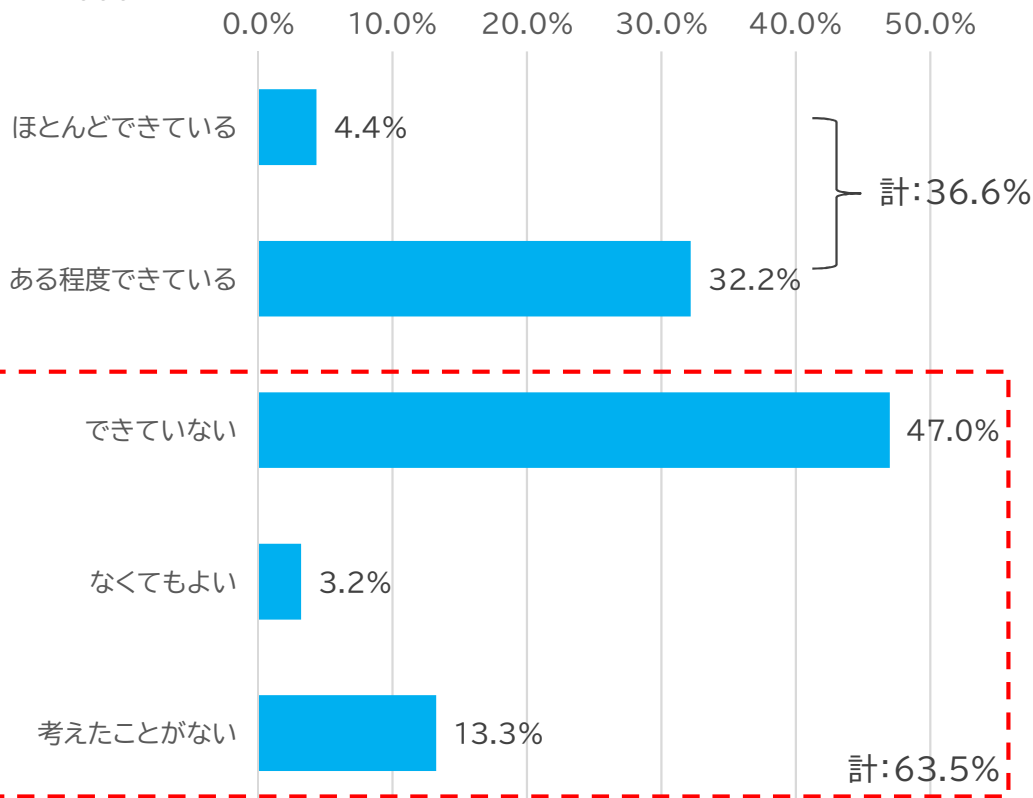
IV. 子どもを持つ親の「資産形成」

子どもを持つ親の「資産形成」①

- 子どもを持つ親の63.5%が将来を見据えた生活設計・マネープランが「できていない」「なくてもよい」「考えたことがない」と回答
- 現在の資産形成の方法については、「行っていない」が最も多く31.3%。次点として、26.6%が「安全資産とリスクのある資産」と回答

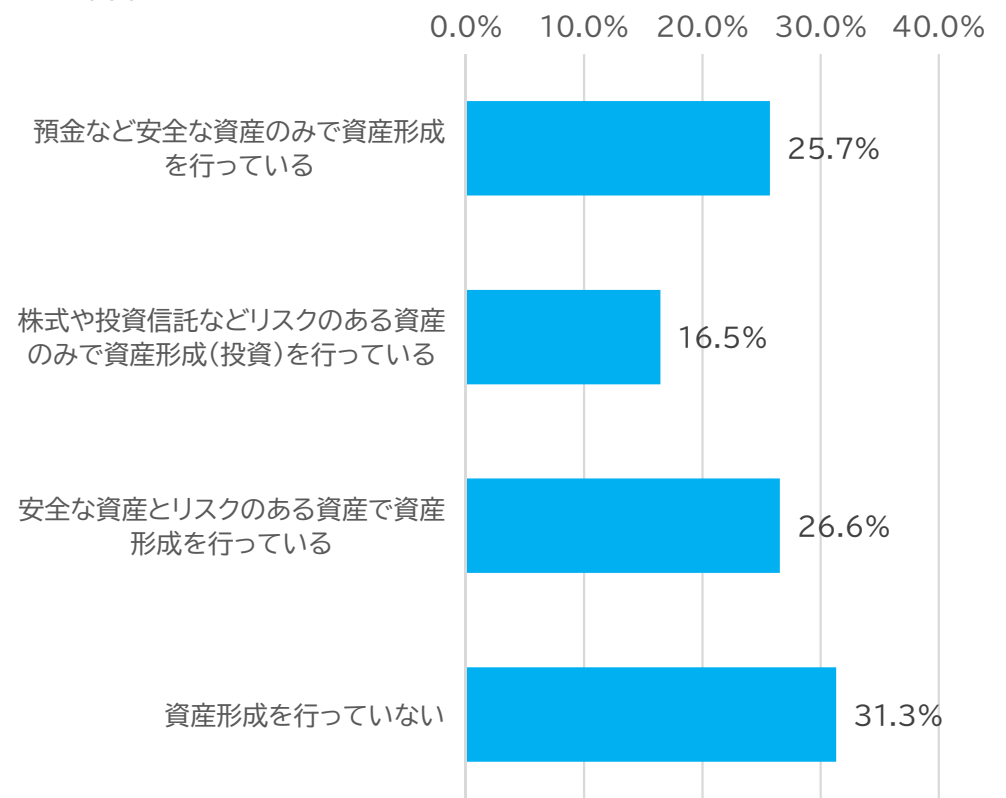
将来を見据えた生活設計、マネープランはできていると思いますか

N=2000



現在の資産形成の方法について教えてください

N=2000



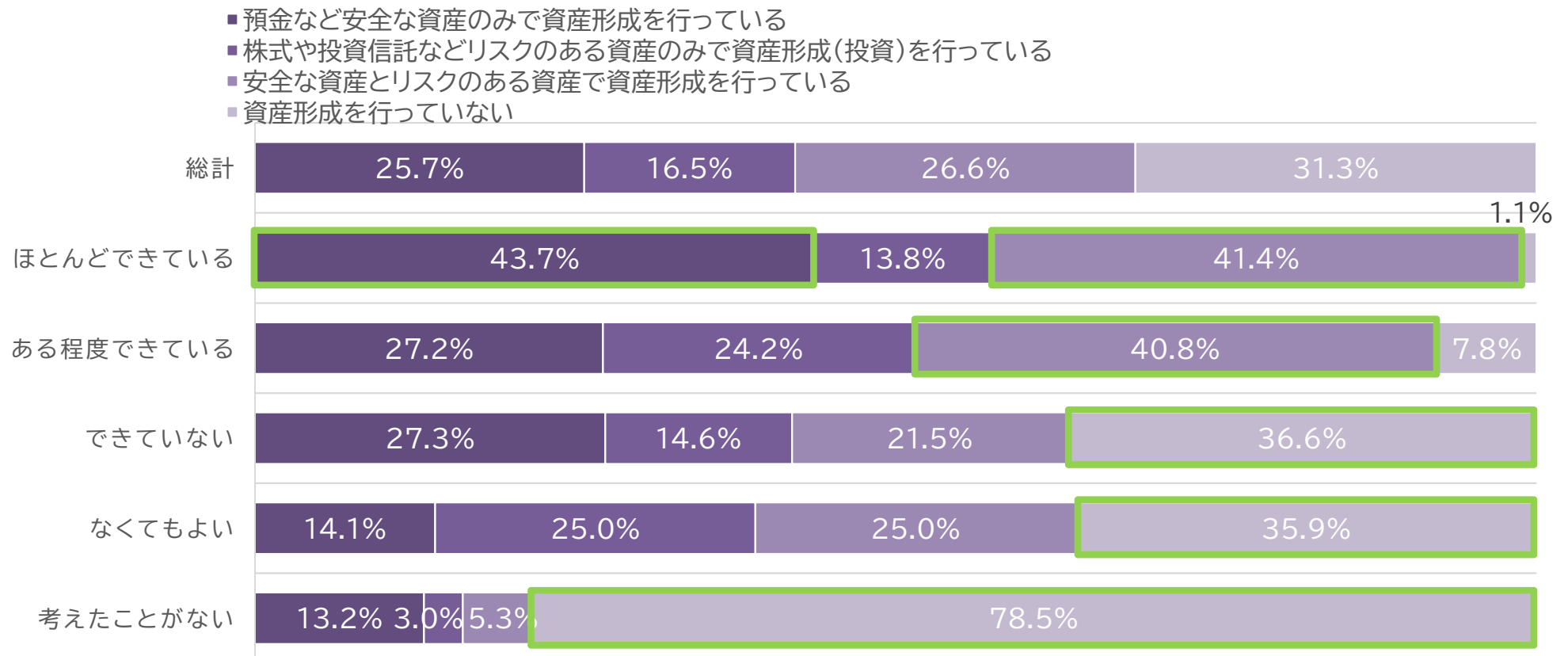
子どもを持つ親の「資産形成」②

- 将来の生活設計が「ほとんどできている」と回答した親は、「安全資産のみ(43.7%)」、「安全資産とリスク資産(41.4%)」で資産形成を実施と回答。「ある程度できている」と回答した親は「安全資産とリスク資産」の40.8%が最も多い回答
- それ以外は「資産形成を行っていない」が最も多い回答

【生活設計・マネープランの水準別】現在の資産形成の方法について教えてください。

N=2000

生活設計、マネープランが出来ているか

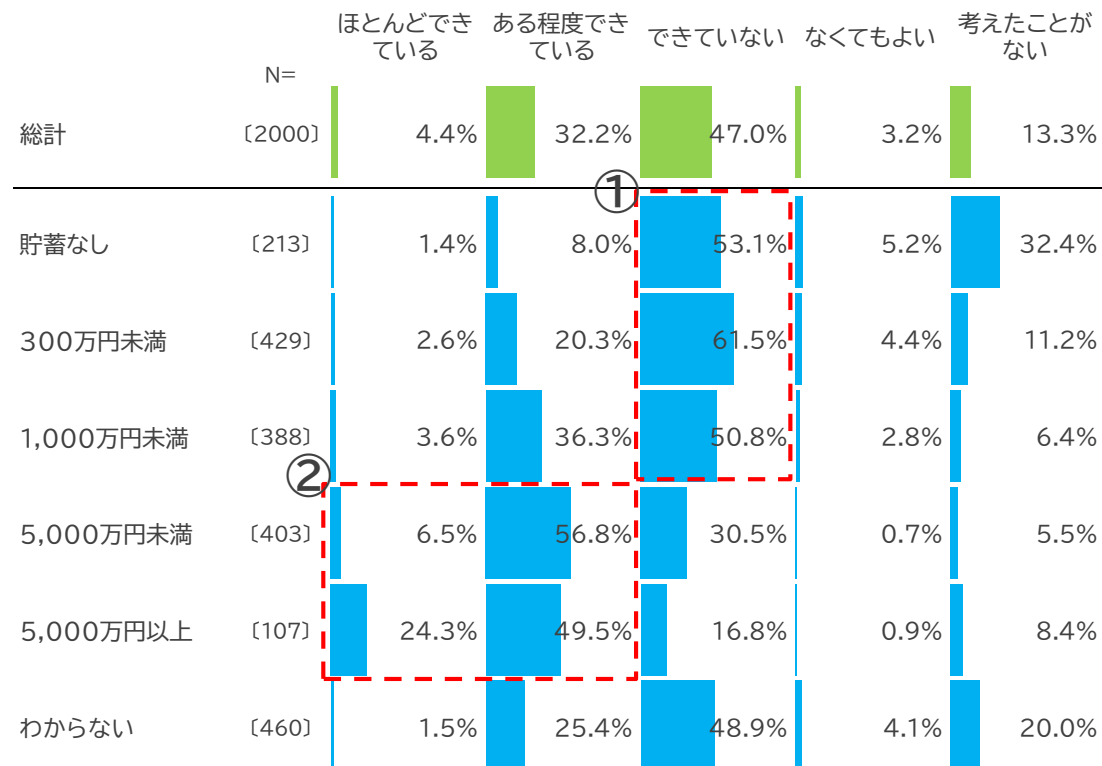


子どもを持つ親の「資産形成」③

- 保有金融資産が1,000万円未満では、将来の生活設計が「できていない」が過半数(①)
- 1,000万円以上では「ほとんどできている」「ある程度できている」が6割以上(②)
- 金融資産の保有額が増えるほど「安全資産とリスク資産」で資産形成を実施している割合が上昇

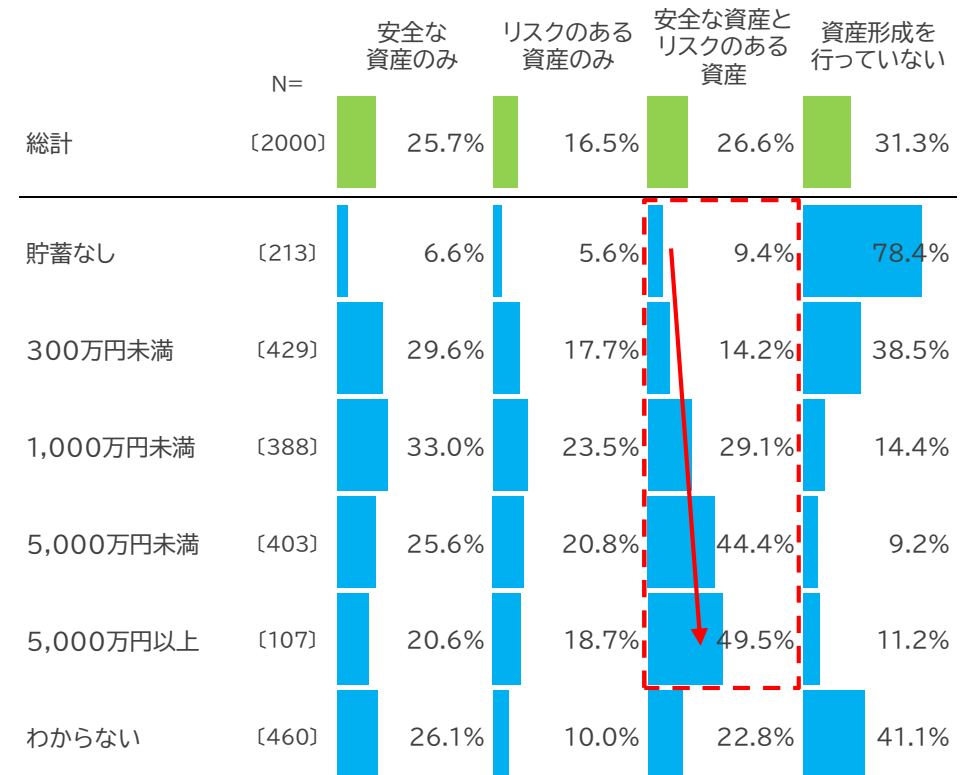
【保有金融資産別】

将来を見据えた生活設計、マネープランはできていると思いますか。



【保有金融資産別】

現在の資産形成の方法について教えてください。

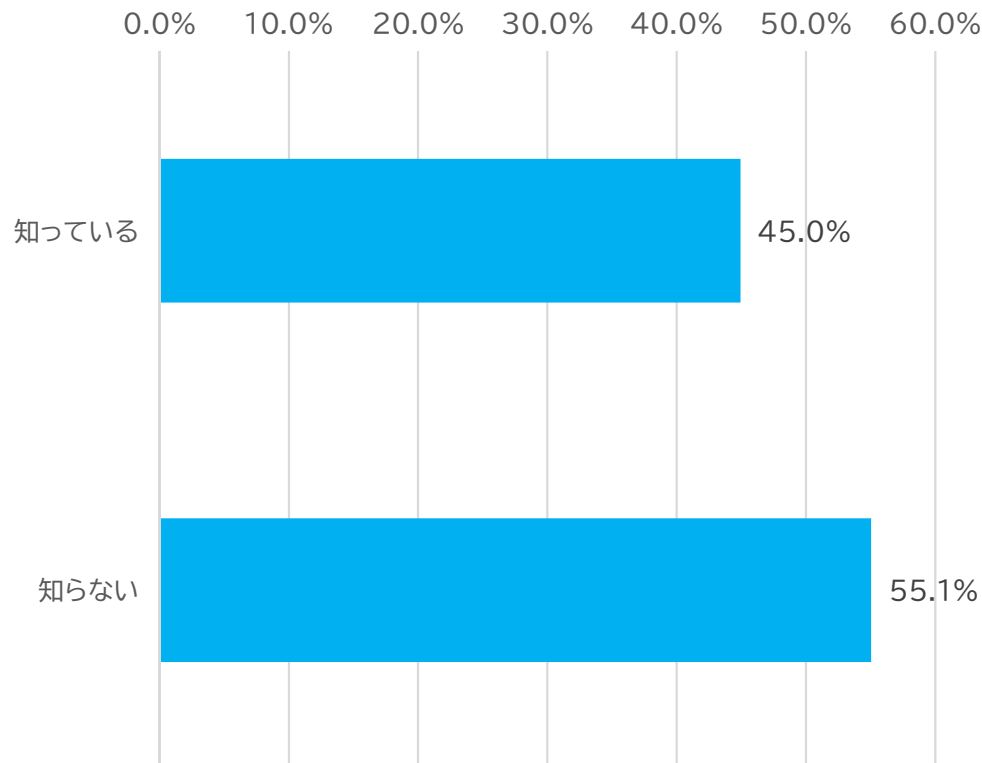


子どもを持つ親の「資産形成」④

- ・ 節税メリットを考慮した投資や貯蓄があることへの認知(「知っている」の回答)は45.0%と半数以下
- ・ 認知している親については、その63.3%が「利用している」と回答するなど、節税に対する関心の高さが伺える

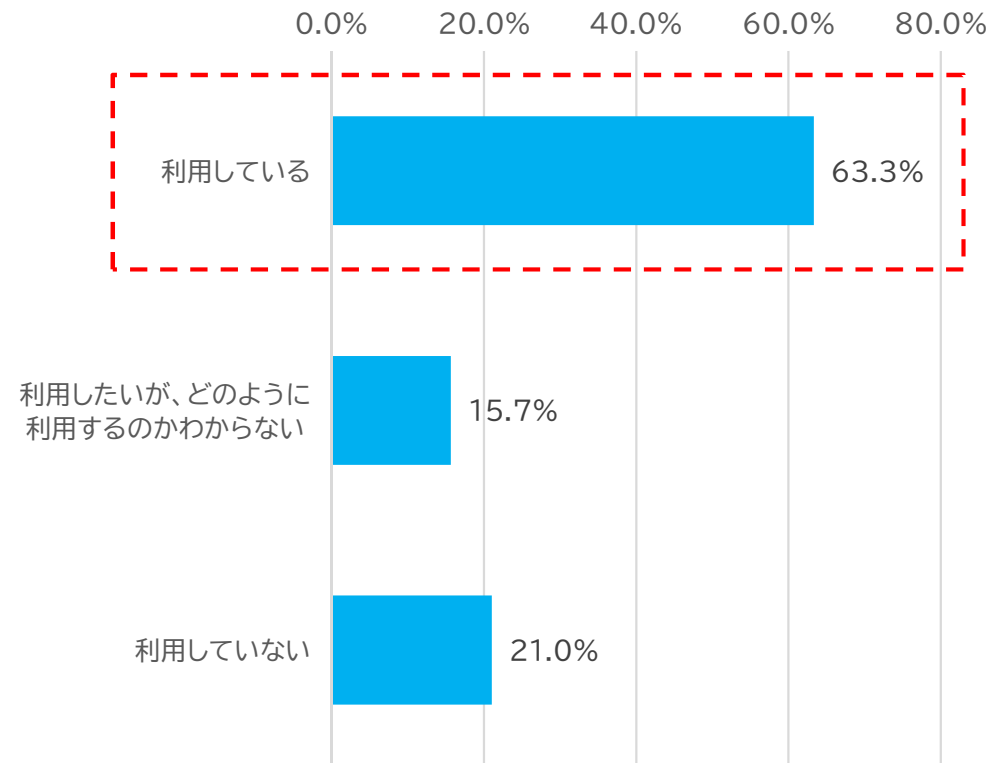
節税メリットを考慮した投資や貯蓄があることを知っていますか

N=2000



【左の質問で知っていると回答した親】 節税メリットを考慮した投資や貯蓄を利用していますか

N=899

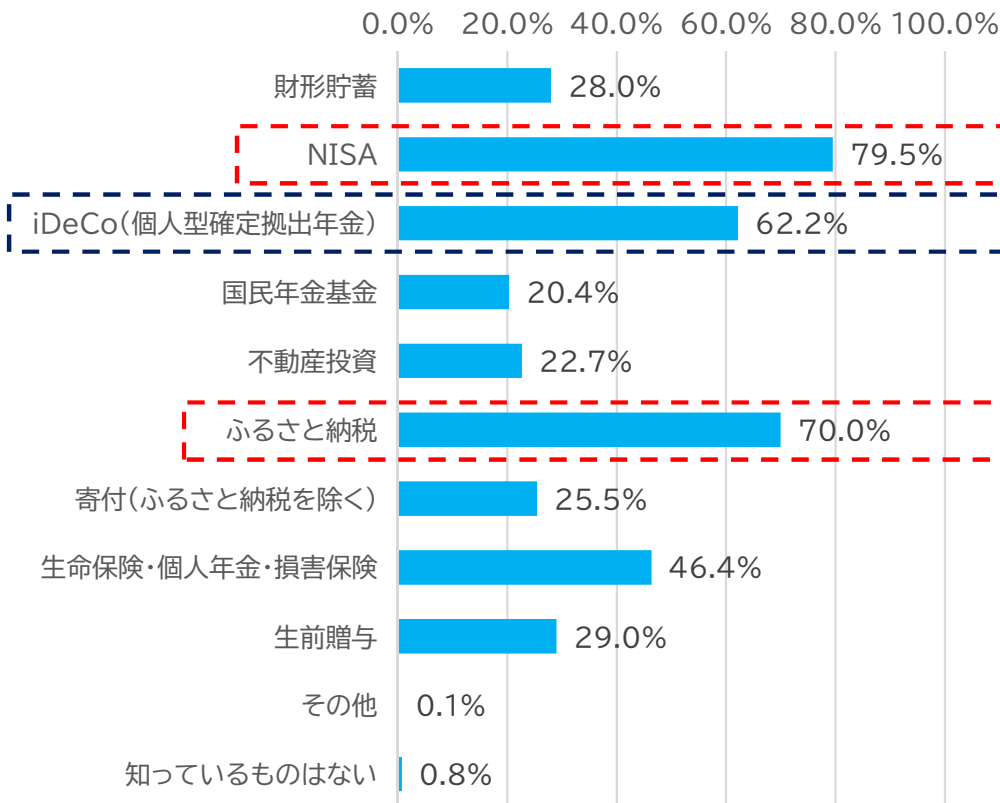


子どもを持つ親の「資産形成」⑤

- ・ 節税メリットを考慮した投資や貯蓄の認知度として、「NISA」「ふるさと納税」「iDeCo」が6割以上の認知
- ・ 利用しているもののうち、「NISA」「ふるさと納税」の利用率は5割を超える一方、「iDeCo」は認知に対する利用が低い

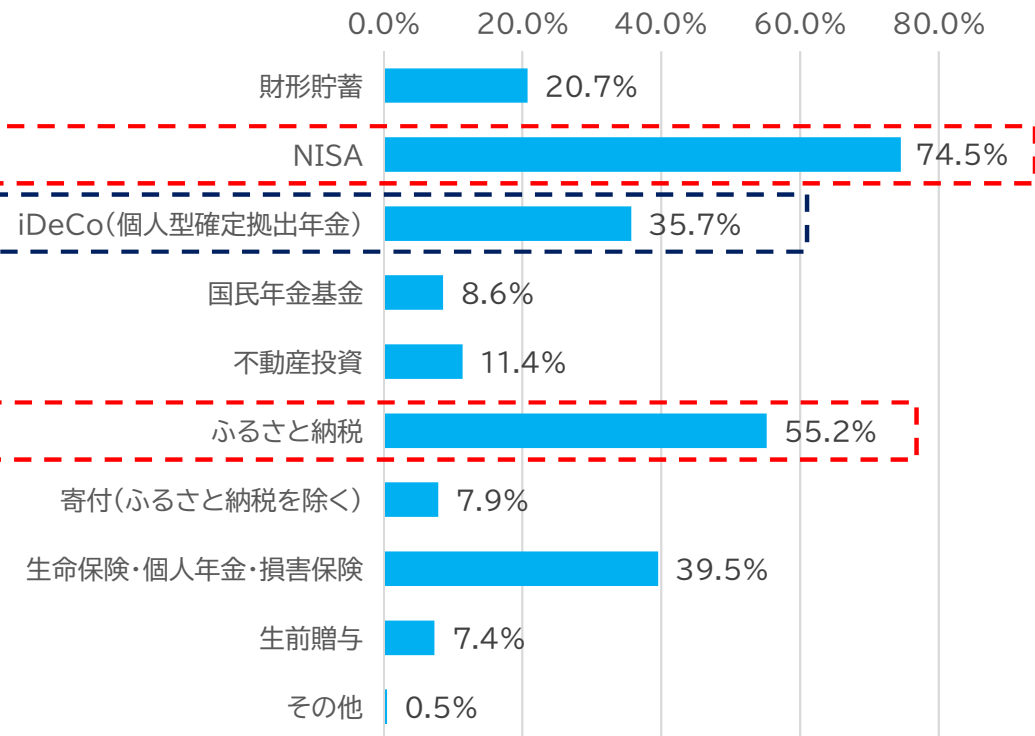
【節税メリットー知っていると回答した親】
節税メリットを考慮した投資や貯蓄として、知っているもの

N=899



【節税メリットー利用していると回答した親】
節税メリットを考慮した投資や貯蓄として、利用しているもの

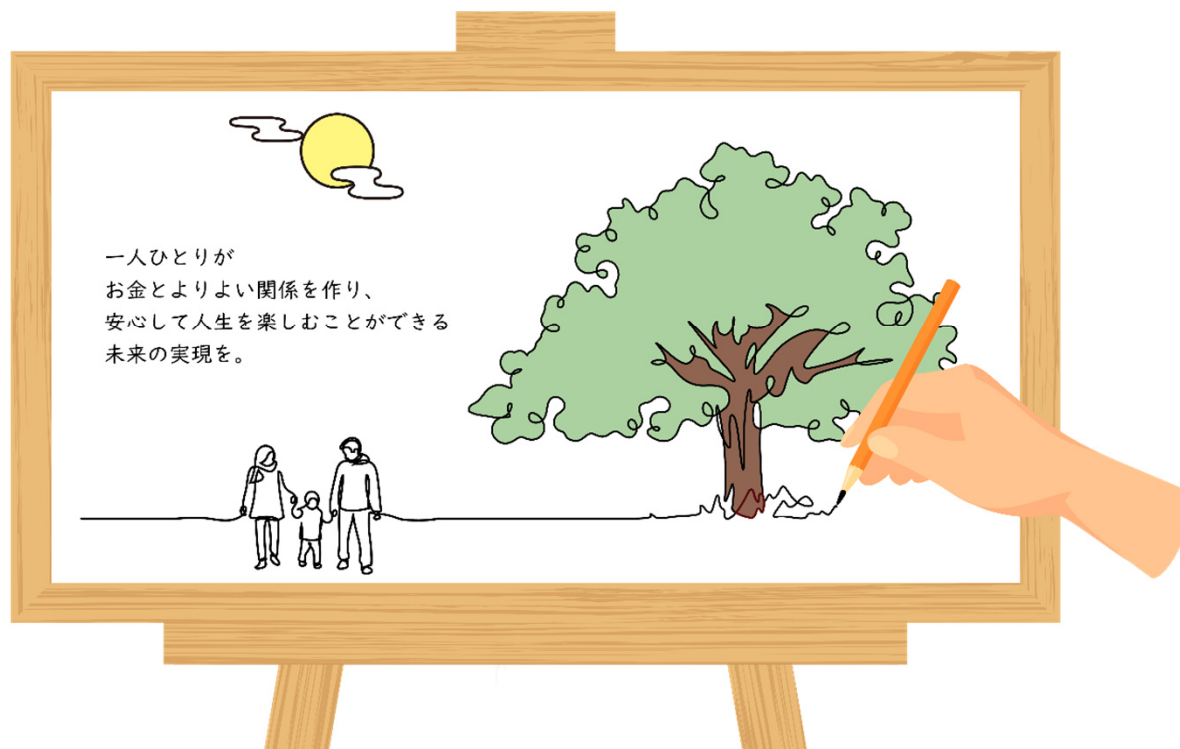
N=569



- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社がお客さまの理解を深めていただくために情報提供を目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- アセットマネジメントOne株式会社は、投資家に対する投資勧誘は行いません。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、
 1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。
 2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。
 4. 委託会社が設定・運用を行います。

アセットマネジメントOne

未来をはぐくむ研究所



未来をはぐくむ研究所のホームページはこちら↑



アセットマネジメントOne

商号等: アセットマネジメントOne株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会